

THE RECORD

2006.03
No.556



音楽の花咲く島々、沖縄から
「トーク&コンサートin沖縄」開催に寄せて

Special Report:
音楽議員連盟第30回定時総会開催

社団法人 日本レコード協会

RIA
Recording Industry Association of Japan

音楽の花咲く島々、 沖縄から

「トーク&コンサートin沖縄」開催に寄せて

豊穡な音楽文化を持ち、多くの人々に親しまれるメロディや歌を生み出し、才能あふれるアーティストを輩出してきた沖縄ー同地において、このほど当協会を含む音楽関係9団体で構成する不法録音物対策委員会は、第15回「トーク&コンサートin沖縄」を開催しました。夏川りみさんをはじめとする沖縄のアーティスト、音楽関係者の出演を得て、ビデオ上映、トークショー、ミニライブを織り交ぜて、訪れた観客へ、共に音楽を楽しみながら、音楽の素晴らしさ、大切さ、音楽を守り育てるためのルールを訴えました。

また同イベントを機に、本誌編集部は、沖縄県の音楽環境や音楽産業の現状と展望、著作権啓発活動などについて地元の関係者へ取材を行いました。

今回の特集では、同イベントの様態とともに、相互に連携しながら音楽産業の振興に努める沖縄県の音楽関係者、行政・メディア関係者らの意欲的な取り組みをご紹介します。

Contents

Special Feature

音楽の花咲く島々、沖縄から

「トーク&コンサートin沖縄」開催に寄せて 1

Special Report : 音楽議員連盟第30回定時総会開催 7

Topics & Information 9

RIAJ Essay : 音楽に関連した出来事 11

Monthly Production Report 12

今月の数字:

2005年年間および第4四半期有料音楽配信売上実績 13

Gold Album+...認定 14



第15回「トーク&コンサート in 沖縄」

2006年1月30日(月) 19時～ 那覇市民会館

- 司会 吉川精一： 元NHKアナウンサー。「のど自慢」「紅白歌合戦」などの司会を務め、親しまれた。
- 出演者 夏川りみ： 石垣島出身。日本全国に幅広いファンを持つ人気と実力を兼ね備えたポップス歌手。「涙そうそう」をはじめ数々のヒット曲を出す。「日本レコード大賞」「NHK紅白歌合戦」でも常連。
- 内里美香： 南大東島出身の若手実力派歌手。民謡に打ち込むかわら、多彩なヴォーカル活動に取り組む。
- ティンクティンク： 照屋林賢プロデュースの、歌って踊れる若手の本格派女性ヴォーカル・デュオ。
崎浜幸代・宮城梓の二人が、沖縄テイストのJ-POPを歌い上げる。
- 備瀬善勝： 那覇市出身。沖縄市でレコード店「キャンパスレコード」を営みながら、作詞家、プロデューサーとしても活躍する沖縄音楽界の重鎮。
- 照屋林賢： 沖縄市出身。祖父・林山、父・林助という沖縄音楽界の巨匠の家に生まれた沖縄を代表するアーティスト。
りんけんバンドのリーダーにしてプロデューサー、映画監督、レーベル代表なども務める多才なクリエイター。



内里美香さん



ティンクティンクさん

1月30日。緋寒桜の紅い花々が彩を添える那覇市民会館には、およそ1,200名もの観客が詰め掛けました。ほぼ満席の場内には、中高年の女性を中心に、地元のおじい、おばあ、家族連れから若い学生・生徒の姿も見られ、暖かい和んだ空気が流れています。

19時、開演。琉球紅型の鮮やかな衣装をまとったティンクティンクの二人が登場して「沖縄からの風」を歌い、オープニングを華やかに飾りました。続いて司会の吉川精一さんが現れ、名調子で観客を和ませた後、VTR「平成の名曲「涙そうそう」、あなたの耳に届くまで～夏川りみを支える人々の想い～」の上映が始まります。—歌手を志し、一度は挫折した夏川りみさんが、それを乗り越えて再デビューを果たし、名曲「涙そうそう」に出会い、そこから生まれた1枚のCDが、多くの人に支えられて沖縄から全国へヒットしていく—感動的なストーリーに、目頭を押さえる人も見られました。



トークショーで著作権の大切さを訴える

VTRが終わると、夏川りみさん本人が登場し、吉川さんと息の合ったトークで場を盛り上げます。そして備瀬

善勝さん、照屋林賢さんを迎え、トークショーがスタート。沖縄音楽は先人たちから連綿と受け継がれた財産であること、伝統を大切にするとところから新しい沖縄音楽が生まれることなど、深い内容が語られました。さらに備瀬さんから「著作権を大切にすることが沖縄音楽の発展につながる」という意見が出ると、照屋さんからは「海賊版を見ると本当にがっかりします。音楽を創る力を奪われていくようです」と実感のこもった言葉が出て、観客に著作権の重要性がアピールされました。

トークショーの後は、ティンクティンクのミニライブです。二人の

はつつつとした歌と踊りに観客も手拍子で応え、場内の熱気も高まっていきます。続くステージは、内里美香さん。沖縄民謡やオリジナル曲を伸びやかな声で歌い上げ、喝采を浴びました。

ステージの合間に、不法録音物対策委員会委員長を務める当協会専務理事の田

辺攻が、沖縄の皆様への挨拶に立ちました。音楽を守り育てるルールの大切さを語りかけ、「人と人との心の



夏川りみさん

絆を生み出す素晴らしい音楽が、沖縄から次々に生まれていくことを心から願っています」と締めくくると、大きな拍手が起こり、メッセージはしっかりと受け止められました。

イベントは佳境に入り、夏川りみさんのライブステージが始まりました。「涙そうそう」「童神」…柔らかく深く、張りのある夏川さんの歌声に、観客は皆じっと聴きほめています。「童神」を歌う直前、幼い子どもの声上がるハ



カチャーシーでフィナーレ



田辺委員長による挨拶

ブニングもあり、会場全体が寛いだ優しい雰囲気に入れ、ステージと客席は一体化しました。そしてフィナーレはカチャーシーです。出演者全員が舞台上に立ち、観客も立ち上がりました。夏川さんが歌う「安里屋ユンタ」に合わせて、手踊りが入り乱れ、手拍子、指笛も響き合い、大いに盛り上がり、賑やかなうちにライブは幕を下ろしました。

視点 1

プロデューサー

沖縄音楽のポテンシャルを活かすために



備瀬善勝氏

沖縄市にレコード店・沖縄音楽専門レーベル「キャンパスレコード」を構える。作詞家・プロデューサーとしても活躍し、若手アーティストの発掘・育成を通じて、沖縄音楽の普及・拡大に取り組む。豊富な経験と人脈から、沖縄音楽の生き字引とも言われている。

トーク&コンサートで熱弁を振るっていただいた備瀬善勝さんに、沖縄音楽の特徴や将来への提言を語っていただきました。

沖縄音楽界では今、ポップスから新民謡まで幅広い分野で活発な創作が行われ、全国的に活躍するアーティストも多くなりました。沖縄音楽が、幅広く聴かれる環境が整ってきたといえるでしょう。この状況に至ったのは、先人が築いてきた、沖縄音楽の確かな基盤があったからこそです。

まず琉球王朝時代の古典音楽や、歌い継がれた民謡の音楽的な形式があります。この伝統に、私たちの先輩方が創意工夫を凝らして、楽しいエンターテインメント性にあふれる音楽を創ってこられました。天才肌の嘉手刈林昌、研究熱心な登川誠仁、多芸多才な照屋林助など、私の知る名手たちも、共通して「人を楽しませる」「人々と共に楽しむ」という強い意識を持っていました。これが、今の沖縄音楽のベースになっています。

さらに沖縄音楽は、奄美地方のシマ唄(集落の唄)という呼び方

からいただいた「島唄」でくられるようになって、世界が広がりました。これを底流に、THE BOOMの歌、“島唄”が生み出されました。そして“島唄”がきっかけとなり、沖縄内外で三線を手にする若者が飛躍的に増え、沖縄音楽の底上げがなされたのです。喜納昌吉&チャンブルーズ、りんけんバンド、ネーネーズなどの活躍も相俟って、沖縄ローカルの音楽が全国区で知られ、沖縄ポップスは大きく発展しました。ポップスの勢いが、民謡界へも波及して、活気づきました。それらの流れが、モンゴル800、ORANGE RANGEなどのヒットにもつながっていきます。彼らには、沖縄で音楽をやってきたというプライドを感じます。

沖縄では、日々多くの「島唄」が生まれ続けています。この恵まれた環境を活かし、沖縄音楽を発展させていくには、著作権意識の向上が欠かせません。今はまだ不十分ですが、創り手、歌い手、聴き手、権利者団体、皆で環境を整えていく必要があると思っています。



備瀬氏が構える「キャンパスレコード」店内

貴重な学習の場として

「トーク&コンサート in 沖縄」を共催した那覇市の文化振興課、島仲課長よりメッセージをいただきました。



那覇市 市民文化部 文化振興課
課長 島仲徳子氏

沖縄音楽界を代表する方々が出演する点、入場無料である点など、地元の人たちにとって喜びの大きいイベントになり、私たちが大変嬉しく思っています。文化にアクセスする力の弱い方々に楽しんでもらえるよう、社会福祉協議会へもチケットを贈呈できました。単なるコンサートだけではなく、市民が著作権について学ぶ場を作っただけに感謝しています。市民の意識を高める働きかけができ、行政・市民双方に意義深いイベントになりました。

これをきっかけに、今後も著作権の大切さを訴える機会を設けようと、思いを新たにしました。那覇市では現在、「文化のまちづくりプラン」として、市民中心の文化事業を推進しています。芸術監督を招いて、ワークショップ、タウンミーティングなどを実践していますが、その中でも著作権、不法録音問題をテーマに取り上げてみたいですね。

沖縄音楽の拡大をどうサポートしていくか



(有)高良レコード店
取締役 レコード部部长 高良雅弘氏

多様な試みにトライしながら、父の開いた老舗を盛り上げる。地元アーティスト・音楽関係者から慕われる、兄貴的な存在の良き相談相手である。夏川りみさんは、最初のデビューの頃から知り、涙そうそうのプロモーションに店頭ライブなどで協力したサポーターの一人。

那覇市の繁華街、国際通りに店を構える高良レコード店。戦後・沖縄の音楽史と共に歩んできた同店は、CDほか各種音楽ソフトの販売だけでなく、楽器店やレコーディング・スタジオ、練習スタジオ、自社レーベルを併営し、沖縄音楽の発展に貢献してきました。

取締役レコード部部长を務める高良雅弘氏に、沖縄の音楽ユーザーの動向や、販売店同士のネットワーク、沖縄音楽振興策、著作権への取り組みなど、多角的に語っていただきました。

沖縄のレコードショップの状況

沖縄の音楽ユーザーの傾向を見ると、沖縄音楽や洋楽の消費が多いですね。当店の品揃えでは、洋楽と邦楽の割合が半々で、沖縄民謡が全体の1割を占めています。どんな小さなレコードショップにも沖縄音楽・地元インディーズコーナーがあり、独自ジャンルとして成立しています。しっかりした市場が育ち、各ショップは地元に着目しています。その一方で、沖縄音楽の拡大をサポートするべく、多様な役割も担います。自社レーベルを併営するショップも多く、地元アーティスト、プロデューサーやその予備軍との交流も盛んです。レコードショップ同士の横のつながり、メディアとの連携

もあり、音楽関係者の結束力はかなり高いですよ。沖縄音楽を盛り上げてやろうという意気込みもあり、アーティストの育成にも熱心。また他地域からの注目度も高く、情報誌やテレビ局が、音楽情報がほしいと問い合わせてきます。このような幅広いフィールドへの沖縄音楽の情報発信や広報活動も私たちの重要な役割です。



国際通りに面した「高良レコード」

「丸山学校」で学ぶこと

最近、東京の会社が若いアーティストの「青田買い」に来るケースが増えています。低年齢化が進み、高校生にまで商談があります。私たちが相談を受けますが、権利関係でつまづかないように、信頼できる専門家を紹介しています。

私は、こうした環境への対応力を高め、業界内で著作権の知識を充実させようと丸山茂雄さん(247music代表取締役、元ソニー・ミュージックエンタテインメント代表取締役社長)にご協力いただき、「丸山学校」を企画しました。丸山さんの豊富な経験をベースに、音楽著作権の専門知識を学び、かつ実践的な運用を研究するもので、2004年8月から随時開講しています。毎回、作詞・作曲家、

アーティスト、メディア関係者ら多数の参加を得て、業界の著作権理解は、確実にレベルアップしてきました。



店内には沖縄の音楽目当てのお客をターゲットにしたコーナーもある

沖縄を音楽の発信地に“音人(おとんちゅ)”プロジェクト

今、各ショップの横のつながりから、沖縄音楽を支えるプロジェクトが生まれ、進行しています。それが、“音人”プロジェクトです。沖縄県内の36店舗が協力して、毎月1、2組のアーティストを地元音楽市場に売り込むという企画で、2005年7月から始まり、1月までに9組ピックアップしました。沖縄に限らず、他地域のアーティストも含めて幅広い人材からセレクトしています。ライブ活動とセットでメディア展開も手配するなど、きめ細かい展開に努めています。この活動の先には、沖縄市場で若手アーティストを際立たせ、全国展開へ導こうという意図があります。最終的に、沖縄が音楽の

発信地として揺るぎない地位を確立できるよう、皆でがんばっていきたいですね。



“音人”プロジェクトシールでアピール

視点 3

メディア

ディープな音楽世界から生まれる沖縄のダイナミズム



琉球放送株式会社
ラジオ局制作部 ディレクター
比嘉奈津子氏

生のワイド番組を担当。その他、楽曲のマネジメントなど、様々な基幹業務に携わる。
夏川りみさんとは、気のおけない友人同士。

沖縄県では、地元メディアも積極的に沖縄音楽の振興に関わってきました。沖縄の若者文化に詳しい琉球放送の比嘉ディレクターから、メディアの現場から見た沖縄の音楽環境の変化や今後の課題、協力態勢などについてご解説いただきました。

有望なアーティストを見出すリスナーたち

私が一番実感しているのは、音楽をやる若い人がものすごく増えたこと。ライブの数が飛躍的に増えました。プロを目指す子が増えただけでなく、仲間同士で音楽を楽しむ層も含めると、底辺は確実に拡大しました。カバーする音楽のジャンルもラテン、ジャズ、ロック、民謡…とても多様です。本当にディープな音楽世界が広がってきたなと思います。近いところで安室奈美恵さんやBEGINさんらが音楽への道を切り開き、続いて身近な若い人たちがメジャーになっていることが、楽器に触ったり、バンドを結成したりという意欲を後押ししていると思います。

沖縄で音楽をやって成功する人が増えました。すごいことだし、嬉しいですね。でも気になることもあります。沖縄でまだ育たな

いうちに、外からスカウトされて出て行く。もう少し育てからでもいいかなと思うんです。年齢に関係なくいろんな音楽を聴く沖縄のリスナーは、しっかり聴く耳を持っています。幅広い年齢層から支持され、沖縄で地位を確立できる子は、結果的に残ります。沖縄のリスナーは、とても温かいまなざしを持っています。いい音楽をやる子たちを本気で応援しますから、いいものを持っている子は育つんですよ。私もラジオのリクエストなどを通じて、売れる歌手、グループを肌で感じ取れます。外れはないですね。

そして沖縄で売れると一目置かれ、これが沖縄ブランドになるわけです。沖縄での評価はレベルが高い、沖縄で売りたいという声はよく聞きますし、話を持ち込んでくるレーベルもすごく増えています。

音楽表現を自由に行える場を提供したい

私自身、放送の現場でもっと沖縄音楽を応援していければと思い、企画を考えています。リスナーの心に届くものを創りたい。今年の自分の課題ですね。また、今、ショップ、放送局、イベント関係者、出版関係者等で音楽好きな仲間が集まった、交流グループを作っています。30代の人たちが主で、その名も「ナイス30s」。実は“音人”プロジェクト(P.4参照)も、ここから羽ばたいたんですよ。こういった個人的なネットワークも沖縄音楽界の特長ですから、皆との交流から、いろんなメリットを引き出せればと思っています。

これからの課題としては、アーティストが育つ環境のさらなる充実です。確かにライブハウスは多く、演奏の場、発表の場もありますが、大勢の人が自然に集まって自由に音楽を聴いたり、演奏したりできる場があるといいですね。たとえば北谷はストリートミュージックの場になっていますけど、こういった自由な発表の場があちこちにできれば、良い観光資源にもなり、産業界へも活力を送ります。これから期待したい部分です。



北谷の美浜地区ではストリートミュージシャンが多く見られる

「中の町・ミュージックタウン整備事業」を進める沖縄市で、著作権講習会を開催



不法録音物対策委員会では、「トーク&コンサート in 沖縄」開催に先立つ1月29日(日)、沖縄市の多目的施設コリンザにて、公開セミナー

作詞・作曲家、舞台関係者など創作活動に携わる人を中心に、一般の音楽ユーザーまで幅広い層の人たちを対象としました。

セミナーでは、JASRACや当協会から派遣した講師が、多彩な解説資料やVTRなどを駆使して、著作権の基礎から丁寧に解説していきました。講義終了後の質疑応答では、地元の音楽関係者から、著作権の権利発生および権利の登録制度などについての質問がなされました。

「著作権講習会」を開催しました。このセミナーは、沖縄市が推進する大型プロジェクト「中の町・ミュージックタウン整備事業」の一環として行われました。

また、終了後のアンケートでは、参加者から「もっと踏み込んだ説明・解説がほしい」「事前に情報をインターネットなどで入手できるようにしてほしい」など意欲的な意見が寄せられたほか、今後の継続的な著作権セミナー開催を希望する声が相次ぐなど、大きな反響がありました。

今回のセミナーの目的は、これから本格化するミュージックタウン整備に先駆けて、著作権に明るい人材や環境を地域内に育てるというもの。地元のインディーズ・バンドやアーティスト、プロデューサー、

独自の「音楽資源」を活かすために

「中の町・ミュージックタウン整備事業」について、沖縄市の文化観光課、照屋課長から解説していただきました。



沖縄市経済文化部 文化観光課
課長 照屋幹夫氏

沖縄市は、戦後、嘉手納基地近郊の市街としてアメリカ文化が継続的に流入し、ジャズ、ロックなどの洋楽と、沖縄伝統音楽の融合した独自性の高い音楽文化を形成してきました。同整備事業は、この音楽文化を地域の資源ととらえ、これを積極的に活用する拠点施設を整備し、「音楽文化・産業の振興」と「中心市街地の活性化」を図るものです。平成17年度から3カ年計画で推進し、最終的にイベントホールやオフィスが一体化した拠点施設を構築すると共に、そこをベースにさまざまな「音楽市場」を立ち上げ、地域の活性化につなげていきます。ただし、施設を作るだけ、音楽産業に投資するだけといったその場限りの事業にはしないつもりです。沖縄市の音楽文化は、二番煎じではなく、独自の「音楽資源」です。これをうまく利用して、人材の育成や雇用の安定を通じて、継続的に地域を幸せにしていければと考えています。

同整備事業は、今回のセミナーの開催から本格的にスタートしました。これでも音楽ビジネスに興味を抱く環境を用意し、来年度からはより具体的な活動にしていこうと考えています。地元のライブハウスをめぐるツアーも企画していますが、そのための専門ガイド、すなわち「語学や音楽、地域の歴史に明るく、観光客をもてなすことのできる人材」を育成する講座をスタートさせます。さらに、舞台の音響、制作、照明といった音楽に関連する人材の育成にも取り組んでいきます。将来的に、新設する拠点施設をベースに、音楽産業の誘致も視野に収めており、そこで雇用できるような人材を育成していくわけです。

私たちには音楽しかありません。だからこそ危機感を持って取り組み、事業の成功を導きたいと思っています。

「…私は歌が大好きです。楽しい時、悲しい時、いつも歌と一緒にでした。」

私が大好きな歌を皆さんも、もっと好きになってもらえたらいいなあと思います。歌を大切に…」

～夏川りみ～

音楽議員連盟第30回定時総会開催

1977年に結成された超党派の音楽議員連盟は、2月22日、衆議院第一議員会館において第30回総会を開催しました。ここにその模様を報告します。

開会～新役員選任

同総会は、議長に選任された築瀬進副会長の議事進行の下、最初に会長の選任が行われました。新会長には、斉藤斗志二副会長兼事務局長によって推挙された柳澤伯夫先生が信任を受け、新しい音楽議員連盟の会長に就任されました。

柳澤新会長は、就任の挨拶に立ち「文化芸術の振興は非常に重要なものであり、重く責任を感じている。メディアが発達する中、音楽の権利を如何に保全していくかを、超党派の先生方と一緒に考え活動していきたい。そのために、文化芸術関係各団体からの情報提供、判断材料の提供・協力を是非お願いしたい」と発言されました。

引き続き、柳澤新会長から、副会長の指名が行われ、新しい役員人事が決まりました。新役員は以下の通りです。

会 長：柳澤伯夫（自民）		
副会長：斉藤斗志二（自民、事務局長兼任）	竹山 裕（自民）	
河村健夫（自民）	鈴木恒夫（自民）	枝野幸男（民主）
築瀬 進（民主）	横光克彦（民主）	冬柴鐵三（公明）
斉藤鉄夫（公明）	緒方靖夫（共産）	照屋寛徳（社民）



音楽議員連盟役員（左奥から、横光克彦副会長、斉藤斗志二副会長兼事務局長、柳澤伯夫会長、築瀬進副会長、鈴木恒夫副会長、枝野幸男副会長、斉藤鉄夫副会長）

議案審議

同議員連盟の活動の指針となる議案書の審議に先立ち、(社)日本芸能実演家団体協議会会長で文化芸術推進フォーラム議長の野村萬氏から、以下の内容で発言がありました。

「文化芸術振興基本法の制定、それを受けての文化芸術推進

フォーラムの発足、知的財産基本法の制定等、文化芸術の振興の基盤ができつつあるところに、公益法人制度改革、音楽用CDの再販制度対象からの除外提案、急速なデジタル化に向けた技術革新等、厳しい波が押し寄せている。芸術活動がそれに呑み込まれそうな危機が迫っている中で、豊かな文化芸術の基盤づくりのための政策実現に格別のご理解とご支援をお願いしたい」

引き続き、斉藤斗志二副会長・事務局長から、別掲の議案書6項目について説明が行われましたが、その中でも特に、「今国会に上程される予定の公益法人制度改革法案」、「急浮上してきた音楽CDの再販制度対象からの除外問題」、「私的録音録画問題の抜本的見直し」、「知的財産戦略における創造、保護、活用」、「映画振興のための対策」、「実演家の地位の向上」等の問題への取り組みが重要であることが述べられました。議案書の構成は以下の通りです。



(社)日本芸能実演家団体協議会
野村萬会長

音楽議員連盟総会議案

1. 文化芸術政策の推進に関する課題

- ①文化芸術活動を促進する「公益法人制度改革」の実現
- ②「音楽用CDにおける再販売価格維持制度」の存置
- ③文化芸術政策の着実な推進
- ④地方公共団体に「文化芸術振興に関する基本条例」の推進

2. 著作権法改正等に関する課題

- ①著作権教育の充実
- ②著作権および著作隣接権保護期間の延長
- ③「私的録音・録画」問題の抜本的な見直しと早期解決
- ④技術革新に対応した権利処理システムと国際的ハーモナイゼーションの推進
- ⑤アジア諸国との日本音楽産業文化交流の促進と著作権意識の啓発
- ⑥法定賠償制度の導入
- ⑦視聴覚的実演に係わる実演家の経済的権利の想起確立
- ⑧レコード放送権の創設
- ⑨豊かで多様なコンテンツ等の創造のための環境づくり
- ⑩音源の「アーカイブ」化で、保存、研究、継承と活用

3. 映画・映像等（視聴覚固定物）に関する課題

- ①映画振興のための施策の推進
- ②日本映画の監督・メインスタッフおよび実演家等の権利の見直し

4. 芸術・文化予算・税制等の拡充に関する課題

- ①文化芸術および文化関連産業への国家予算配分の拡充
- ②寄付文化を育てる税制上の整備
- ③プロフェッショナル団体への重点配分
- ④地域社会に舞台芸術を楽しむ拠点の重点的な整備の促進

5. 人材育成、地位の向上、生涯学習に関する課題

- ①実演家スタッフなど芸術家等のライフステージに相応しい養成と研修の体制を充実し、豊かな作品を生み出す芸術創造の基盤整備
- ②実演家、スタッフなど芸術家等が能力を十分に発揮するため、安全で安心して活動に取り組めるセーフティネットの確立
- ③実演家の肖像パブリシティ権の保護

6. 子供の文化芸術振興に関する課題

意見交換等

議案書の採択の後意見交換に移り、芸術団体を代表して、最初に、(社)日本音楽著作権協会の船村徹会長から、「コンテンツの流通促進、利用の効率化を図るために、著作権の保護を弱めたり制限したりすべきだ」というような意見が大きくなりつつあることに懸念を感じている。また、文化芸術の国際交流が盛んになってきている中で、国際的なルールとの調和を図るために、著作権と著作隣接権の保護期間の延長が必要。創作活動を通じて文化芸術の振興に積極的に取り組んでいくので、ご理解とご支援をお願いしたい」との発言がありました。引き続き、当協会佐藤修会長から還流防止措置導入後の成果へのお礼と音楽CDの再販制度擁護についての要請を行いました(佐藤会長発言 別掲)。



(社)日本音楽著作権協会
船村徹会長

CDの再販関係に関する佐藤会長の発言を受け、築瀬議長から、「平成12年2月の第25回音楽議員連盟総会における特別決議を確認し、それを受け止めて努力していきたい」との表明が行われました。その後いくつかの意見交換が行われました。

最後に、柳澤会長から、「重要な問題が山積しており、理解を深めながら賛同議員を拡大し、文化芸術の振興に取り組んでいきたい」との決意が表明され、第30回定時総会が終了しました。

なお、音楽議員連盟はメンバーも新たに、衆議院62名、参議院21名の計83名の議員連盟として再スタートしました。

◆佐藤会長 発言内容◆

日本レコード協会の佐藤でございます。

本日は、こうして発言の機会をいただきまことにありがとうございます。

さて、音楽議員連盟の先生方に大変ご支援をいただき、昨年1月から導入されました「音楽レコードの還流防止措置」につきましては、お手許にお配りしました2月10日付の朝日新聞記事にあります通り、「中国において、日本の音楽の人氣が高まり、海賊版に替えて正規品の流通が盛んになってきた」という形で実際の成果が現れてきています。

改めて、ご支援をいただきました先生方に対し、深く感謝申し上げます。ところで、既に報道されている通り、知的財産戦略本部のコンテンツ専門調査会は、20日に公表した「デジタルコンテンツの振興戦略」の中で、「音楽用CDを再販売価格維持制度の対象から除外することを検討する」と提言しています。

しかし、音楽議員連盟振興会のメンバーでもある日本音楽著作権協会、日本芸能実演家団体協議会、そして私共日本レコード協会を含む音楽関係10団体は、コンテンツ専門調査会に対し、前もって「音楽CDのみを再販制度の対象から除外することを検討する」事に対し強く反対する旨の意見書を提出いたしました。

その主な理由は、以下の3点です。

1. 再販制度は、わが国の文化政策の根幹を成す極めて重要な制度です。当制度により音楽文化の「創造－保護－活用」の知的創造サイクルが守られ、作家やアーティストの活動の場が広がり、国民も多様な音楽文化を享受することができます。
2. 同じ著作物の中で、音楽用CDのみを再販制度の対象から除外とした今回の提言は全く不当であり、納得できません。活字文化を保護し、音楽文化を低位に置く判断に基づいているとすれば大問題です。
3. 音楽用CDは数多くの関係者による長期間の取り組みの結果、公正取引委員会によって5年前に当面存置の結論が下されました。その後、音楽業界は消費者利益の向上を目指し再販制度の弾力的運用に努めてきましたが、今回の提言はこうした努力や文化的視点での検討が全くなされてない中での提言です。

以上の理由により、当制度の擁護に向け、引き続き音楽議員連盟の先生方のご理解とご支援を賜りますよう、この場をお借りしてお願いを申し上げます。

どうもありがとうございました。



当協会 佐藤修会長

Topics & Information

デジタルコンテンツの振興戦略と音楽用CDの再販制度見直し

知的財産戦略本部コンテンツ専門調査会デジタルコンテンツ・ワーキンググループは、2月2日、「デジタルコンテンツの振興戦略(案)」を取りまとめました。同振興戦略(案)には「ユーザー大国」、「クリエイター大国」、「ビジネス大国」の3本柱が目標として掲げられ、全部で11の提言が行われています。

その中で、「音楽用CDにおける再販売価格維持制度の見直し」について、以下のように述べられています。

目標1:ユーザー大国の実現

(提言3) ユーザーが豊かなコンテンツを楽しめるようにする

—課題—

インターネット等の新しいメディアをめぐる技術の発展はめざましく、我が国のインターネット環境は世界的に見ても進んでいる。ユーザーである国民ひとりひとりがその恩恵を実感でき、手頃な価格で質の高いコンテンツを利用できるよう、これらの技術や環境を積極的に活用してコンテンツの流通促進を図る必要がある。

—解決策—

(2) 音楽用CDにおける再販売価格維持制度の見直し

CD、DVDパッケージ、ネット配信など、ユーザーが複数のメディアから選択してコンテンツを楽しめるようになったが、音楽用CDについては、依然、再販売価格維持制度によって同一の商品が異なる販売店でも同一の価格で販売されている。業界による再販期間の短縮の取組等が見受けられるものの、それに留まっている。ユーザーがコンテンツを選ぶ際に、価格についても幅広い選択肢の中から選ぶことができるよう、音楽用CDについては再販売価格維持制度の対象から除外することを検討する。

この提言を受け、当協会は、2月9日に臨時理事会を開催して対応を検討した結果、平成17年度事業計画における「再販制度の擁護」の基本方針のとおり、引き続きこの制度を擁護していくことを確認しました。

さらに、音楽CDの再販制度擁護に連携して取り組んできた、当協会を含む音楽関係10団体*は、この問題を検討するため、急遽2月14日に会議を開催し、ここでも「音楽CDの再販制度を断固擁護する」との方針が確認されました。

この方針に基づき、同10団体としての『音楽用CDの再販売価格維持制度の見直し提言』に反対する緊急声明)を取りまとめ、2月16日、知的財産戦略本部コンテンツ専門調査会の牛尾治朗会長宛に提出しました。

音楽CDの再販制度については、2月22日に行われた

音楽議員連盟第30回定時総会においても、当協会佐藤会長からその必要性を訴え、同総会の議案書として採択されました(詳細は本号P. 7~8ページをご覧ください。)

*音楽関係10団体:(社)日本音楽著作権協会、(社)日本芸能実演家団体協議会、(社)日本音楽事業者協会、(社)音楽出版社協会、(社)音楽制作者連盟、(社)日本歌手協会、日本音楽作家団体協議会、日本レコード商業組合、全国レコード卸同業会、(社)日本レコード協会

音楽ファイル不正アップロードユーザー38名の発信者情報開示を請求

当協会会員レコード会社および会員関連レコード会社21社は、昨年12月から2月までに、ファイル交換ソフトを利用してインターネット上で音楽ファイルを不正にアップロード(公開)しているユーザー38名の氏名等の開示を求める請求を、当該送信のためにインターネットへの接続を提供するインターネットサービスプロバイダ(ISP)11社に対して行いました。

今回、発信者情報開示請求に至ったのは、当該ユーザーが市販音楽CDの音源をファイル交換ソフトを利用して許諾なくアップロードし、各社の著作権隣接権(送信可能化権)を侵害していることによるもので、「プロバイダ責任制限法」第4条第1項に基づき、ISP11社に対しユーザーの氏名、住所等の情報(発信者情報)の開示を求めました。

当協会は、ファイル交換ソフトを利用してインターネット上で音楽ファイルを不正にアップロードしていると思われるユーザーに対して、一昨年3月から、インスタントメッセージ(IM)を利用して注意を喚起する通知を開始し、現在までの送付総数は1,000万通を超えています。また、様々な著作権啓発活動を実施してきた結果、市販音楽CD等から作成したファイルが無許諾でインターネット上にアップロードする行為が違法であることの認知度は高まりつつあります。

しかし、他方では、権利者の許諾を得ずに音楽ファイルを繰り返し大量にアップロードする個人も後を絶たないため、当協会会員レコード会社は、当該個人に対し損害賠償請求等を行うために必要な発信者情報の開示請求をISPに対して行うこととしました。今後も継続して行っていく予定です。

2005年度「Respect Our Music」キャンペーン 大黒摩季さんの協力を得て第3弾がスタート

昨年12月号の特集でも紹介しましたが、当協会は現在

「Respect Our Music」キャンペーンを展開中です。

このキャンペーンは、不正コピー・アップロード対策として、音楽関連団体、作詞・作曲家、アーティスト、販売店、音楽専門メディア等音楽業界および日本インターネットプロバイダー協会などの支援、協力のもと、音楽を正しく聴くことの大切さを広く社会に理解していただくことを目的とした著作権啓発キャンペーンです。今年度は、夏川りみさん、一青窈さん、大黒摩季さんの3名のアーティストの協力を得て、昨年11月から展開中です。

今年度最後となる大黒摩季さんの展開では、全国レコード店でのポスター掲出、オリコンスタイルWEB上での特集ページの設置、新聞・雑誌広告、レコード会社／音楽関係団体／ISPなどの各ホームページ上のリンクバナー掲出、オリジナルギフトカードによるパブリシティー、交通広告などを予定しています。

このキャンペーンを通じて、音楽ファンの皆様に、IT時代において見過ごされがちな著作権と新しい音楽創造の価値を理解してもらい、正しく音楽を聴くことの大切さを訴えていきます。



ポスター

経済産業省平成17年度出版／音楽・映像ソフト業界における電子タグ実証実験を実施

出版／音楽・映像ソフト業界は、経済産業省の支援を受け、電子タグの利活用・実証実験を実施しました。

この実証実験は、電子タグの利活用により、業界全体の業務プロセスの改善等を促進し、我が国経済の持続的な活性化に資することを目的として行います。今年度は8



「新星堂ララスクエア宇都宮店」での公開実験の様子

業界の実証実験の一つとして、出版業界と音楽・映像ソフト業界が合同で、小売店舗の活性化によるコンテンツ産業の活性化・構造改革を目指し実施しました。

具体的には、特定の実験店舗にて、UHF帯（電波方式）、13.56MHz（電磁誘導方式）の各周波数の電子タグを用い、消費者の来店を促進する新サービス・店舗運営の検証等を行いました。

2月10日～14日には栃木県宇都宮市の「新星堂ララスクエア宇都宮店」で、2月17日～21日には東京都港区の「TSUTAYA新橋店」で、2月23日～3月5日には東京都千代田区の「ブックハウス神保町」で店頭実験が行われ、業界関係者や一般の方々にも公開されました。

第20回 日本ゴールドディスク大賞コンピレーションアルバム「THE JAPAN GOLD DISC AWARD 2006」発売

「第20回日本ゴールドディスク大賞」の各賞受賞作品を中心にヒット曲を集めたコンピレーションアルバムが、3月1日に（株）BMG JAPANより発売されました。

このアルバムは、当協会会員社ならびにアーティスト等の協力のもと、レーベルの垣根を超えて収録される、2005年の音楽シーンを総括するのにふさわしい貴重なアルバムです。

これまでは毎年1作品のみの発売でしたが、今作は20回という節目を迎え、よりユーザーのニーズに近づけるために邦楽盤と洋楽盤の2作品が発売されました。



国内アーティスト収録盤
¥2,548 (税込) BVCR-15004
BMG JAPAN



海外アーティスト収録盤
¥2,548 (税込) BVC2-31064
BMG JAPAN

文化庁著作権分科会、文化審議会に報告書を提出

2月3日、文化審議会第40回総会が開催され、著作権分科会から報告書が提出されました。これは、著作権分科会の法制問題小委員会、契約・流通小委員会および国際小委員会がそれぞれ、「法律ルールの整備」、「円滑な流通の促進」、「国際的課題への対応」について、検討結果をとりまとめたものです。

入会のごあいさつ



「株式会社ジェイ・ストーム」はジャニーズ傘下のレコード会社として2001年12月に設立されました。音楽と映画のソフト制作・宣伝関連を主な業務としております。最近の作品では、デビュー7年目の「嵐」のTBS系ドラマ「花より男子」の主題歌「WISH」がお蔭様で素晴らしい売り上げとなりました。

そしていよいよ今春、ライブDVD『KAT-TUN Live海賊帆』が好調の「KAT-TUN」が、弊社の新レーベル「J-One Records」からCDデビューすることになりました。シングル・アルバム・DVDの同時発売で、かなりの高セールスに期待が掛かります。

また映画部門でも「ホールドアップダウン」も順調な興行実績をあげ、今春にはDVDのリリースを予定しています。

今後も、会社設立時に誓った「新しいことを常にやっいていこう」という思いを忘れることなく、多種多様なアンテナを持つユーザーの方々にご支持頂けますよう前向きな挑戦を重ねてまいりたいと思っております。

株式会社ジェイ・ストーム
取締役 宣伝部長 飯田雄一郎

● 2006年2月会議メモ

- 2・3 二次使用料委員会
- 2・7 法制委員会
- 2・8 マーケティング委員会
- 2・9 臨時理事会
- 2・10 レコード倫理審査会
広報委員会
情報・技術委員会
- 2・15 アジア音楽市場拡大委員会
- 2・17 執行委員会
- 2・24 理事会
- 2・28 日本ゴールドディスク大賞委員会

RIA Essay

■ 音楽に関連した出来事

株式会社ワーナーミュージック・ジャパン 専務取締役(CFO) 市井三衛

この機会に、私のそれぞれの時代と、音楽に関連した出来事を振り返ってみました。

幼稚園の時は、映画「狼少年ケン」を母親と観に行き、主題歌がかかると、歌いながら前に行き出たそうです。他の子供達も、続いて来て、映画館はかなり盛り上がったそうですが、その後、あまり映画館には連れて行ってもらえなくなってしまいました。

小学校時代は、GS全盛時代ですので、生意気にも、仲間達と良く歌っておりました。スパイダース、タイガースの映画なども観に行きました。中学時代は、ビートルズなども聴いておりましたが、メインは、フォークでした。クラス対抗の合唱コンクールで、「戦争を知らない子供達」とか、「あの素晴らしい愛をもう一度」などを歌っておりました。

高校時代は、色々と聴きましたが、一番印象に残っていますのは、荒井由実さんのファーストアルバム「ひ

こうき雲」です。文化祭では、我々も含めていくつかのグループが、自主制作映画(8ミリ)を上映しましたが、彼女の曲をメインに映画そのものを制作するグループも出てくる状況でした。3年の時には、ライブにも行き、彼女の衣裳の派手さと飽きさせないライブ構成に感心した事や、松任谷さんが飛び入り参加された事なども良く覚えております。この頃から、映画もかなり観るようになってきましたので、映画音楽(特に洋楽)にも、少しずつ触れる機会が増えてきました。

大学以降も色々な出来事がありましたが、それは、又、機会がありましたら…。



中学生時代

Monthly Production Report

2006年1月度レコード生産実績

1月度の音楽ソフト(オーディオレコード・音楽ビデオの合計)生産実績は、数量で前年同月比97%の2,296万枚・巻、金額で前年同月比83%の248億円となりました。このうち、オーディオレコードは、数量で前年同月比98%の2,042枚・巻、金額では前年同月比82%の218億円となりました。また、音楽ビデオは、数量で前年同月比88%の254万枚・巻、金額で前年同月比98%の29億円となりました。

● オーディオレコード

(数量:千枚・巻/金額:百万円)

			1月実績						2006年(1月~1月)累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
シ	8cmCD	邦	407	2	564%	29	0	117%	407	2	564%	29	0	117%
		洋	10	0	1939%	5	0	4437%	10	0	1939%	5	0	4437%
		計	417	2	574%	34	0	134%	417	2	574%	34	0	134%
ン	12cmCD	邦	5,229	26	119%	4,078	19	127%	5,229	26	119%	4,078	19	127%
		洋	29	0	72%	18	0	53%	29	0	72%	18	0	53%
		計	5,258	26	119%	4,097	19	126%	5,258	26	119%	4,097	19	126%
ル	小計	邦	5,636	28	127%	4,108	19	127%	5,636	28	127%	4,108	19	127%
		洋	39	0	95%	23	0	66%	39	0	95%	23	0	66%
		計	5,675	28	126%	4,131	19	126%	5,675	28	126%	4,131	19	126%
12cmCD アルバム	邦	8,463	41	82%	10,681	49	67%	8,463	41	82%	10,681	49	67%	
	洋	5,704	28	107%	6,520	30	94%	5,704	28	107%	6,520	30	94%	
	計	14,167	69	90%	17,202	79	75%	14,167	69	90%	17,202	79	75%	
CD 合計	邦	14,099	69	95%	14,789	68	77%	14,099	69	95%	14,789	68	77%	
	洋	5,742	28	107%	6,543	30	94%	5,742	28	107%	6,543	30	94%	
	計	19,841	97	98%	21,332	98	82%	19,841	97	98%	21,332	98	82%	
アナログ ディスク	邦	4	0	14%	3	0	8%	4	0	14%	3	0	8%	
	洋	7	0	240%	8	0	168%	7	0	240%	8	0	168%	
	計	11	0	38%	11	0	25%	11	0	38%	11	0	25%	
カセット テープ	邦	550	3	86%	475	2	88%	550	3	86%	475	2	88%	
	洋	0	0	2%	0	0	5%	0	0	2%	0	0	5%	
	計	550	3	85%	476	2	88%	550	3	85%	476	2	88%	
その他	邦	6	0	219%	11	0	315%	6	0	219%	11	0	315%	
	洋	9	0	66%	16	0	55%	9	0	66%	16	0	55%	
	計	16	0	92%	27	0	81%	16	0	92%	27	0	81%	
合計	邦	14,659	72	95%	15,278	70	78%	14,659	72	95%	15,278	70	78%	
	洋	5,759	28	107%	6,568	30	94%	5,759	28	107%	6,568	30	94%	
	計	20,418	100	98%	21,846	100	82%	20,418	100	98%	21,846	100	82%	

● 音楽ビデオ

			1月実績						2006年(1月~1月)累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
DVD	邦	2,015	79	82%	2,109	72	91%	2,015	79	82%	2,109	72	91%	
	洋	454	18	127%	688	24	124%	454	18	127%	688	24	124%	
	計	2,469	97	88%	2,797	96	98%	2,469	97	88%	2,797	96	98%	
テープ・LDその他		69	3	98%	114	4	106%	69	3	98%	114	4	106%	
合計	邦	2,078	82	83%	2,215	76	92%	2,078	82	83%	2,215	76	92%	
	洋	461	18	129%	695	24	125%	461	18	129%	695	24	125%	
	計	2,539	100	88%	2,911	100	98%	2,539	100	88%	2,911	100	98%	

● 音楽ソフト(オーディオ/音楽ビデオ合計)

			1月実績						2006年(1月~1月)累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオ		20,418	89	98%	21,846	88	82%	20,418	89	98%	21,846	88	82%	
音楽ビデオ		2,539	11	88%	2,911	12	98%	2,539	11	88%	2,911	12	98%	
合計		22,956	100	97%	24,757	100	83%	22,956	100	97%	24,757	100	83%	

● ビデオ(含音楽ビデオ)

			1月実績						2006年(1月~1月)累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
DVD		7,140	98	91%	10,819	97	91%	7,140	98	91%	10,819	97	91%	
テープ・LDその他		133	2	43%	281	3	28%	133	2	43%	281	3	28%	
合計		7,273	100	90%	11,100	100	86%	7,273	100	90%	11,100	100	86%	

● オーディオ/ビデオ合計

			1月実績						2006年(1月~1月)累計					
			数量	構成比	前年同月比	金額	構成比	前年同月比	数量	構成比	前年同期比	金額	構成比	前年同期比
オーディオ		20,418	74	98%	21,846	66	82%	20,418	74	98%	21,846	66	82%	
ビデオ		7,273	26	90%	11,100	34	86%	7,273	26	90%	11,100	34	86%	
合計		27,691	100	96%	32,947	100	83%	27,691	100	96%	32,947	100	83%	

備考 1. 上記実績は、会員会社「41社」の集計である。当会員会社が受託した非会員会社からの販売委託分を含む。
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。
※オーディオレコードのその他はSACD、DVDオーディオ、DVDミュージック、MDの合計。

2005年年間および第4四半期 有料音楽配信売上実績

当協会加盟全社の集計による2005年年間および第4四半期(2005年10月1日～12月31日)の有料音楽配信売上実績がまとまりました。

2005年第4四半期は、前期に引き続き、インターネット・ダウンロード、モバイルとも好調で、インターネット・ダウンロードが、数量で前期比211%の496万回、金額で前期比199%の8億7,045万円と大幅に伸長し、モバイルも数量で前期比107%の7,740万回、金額で前期比105%の95億6,924万円となりました。

この結果、2005年度1-12月の累計では、インターネット・ダウンロードが数量で946万回、金額で18億5,062万円、モバイルが数量で2億5,838万回、金額で323億4,000万円となり、その結果合計が数量で2億6,790万回、金額で342億8,301万円となりました。なお、本統計は、今後も四半期毎の公表を予定しております。

(年間)

(数量:千回/金額:千円)

	2005年1月～2005年12月					
	数量	構成比	前期比	金額	構成比	前期比
インターネット・ダウンロード	9,463	3.5%	—	1,850,616	5.4%	—
モバイル	258,376	96.4%	—	32,339,996	94.3%	—
その他	63	0.0%	—	92,397	0.3%	—
合計	267,901	100.0%	—	34,283,009	100.0%	—

(第4四半期)

	2005年10月～2005年12月					
	数量	構成比	前期比	金額	構成比	前期比
インターネット・ダウンロード	4,962	6.0%	211%	870,454	8.3%	199%
モバイル	77,402	94.0%	107%	9,569,241	91.4%	105%
その他	14	0.0%	46%	33,954	0.3%	140%
合計	82,378	100.0%	111%	10,473,649	100.0%	110%

(上半期)

	2005年1月～2005年6月					
	数量	構成比	前期比	金額	構成比	前期比
インターネット・ダウンロード	2,152	1.9%	—	543,454	3.8%	—
モバイル	108,905	98.0%	—	13,689,064	96.0%	—
その他	18	0.0%	—	34,193	0.2%	—
合計	111,075	100.0%	—	14,266,711	100.0%	—

(下半期)

	2005年7月～2005年12月					
	数量	構成比	前期比	金額	構成比	前期比
インターネット・ダウンロード	7,311	4.7%	340%	1,307,162	6.5%	241%
モバイル	149,470	95.3%	137%	18,650,932	93.2%	136%
その他	45	0.0%	249%	58,204	0.3%	170%
合計	156,826	100.0%	141%	20,016,298	100.0%	140%

- 備考
- 当統計は、会員会社「41社」が、事業主として、または卸販売して、もしくはライセンスをして配信を行っている音源等についての実績をとりまとめたもの。
 - それぞれの項目内容は以下のとおり
 - ・インターネット・ダウンロード:シングル、アルバム、その他の合計。
 - ・モバイル:オリジナル音源を利用したシングル曲(全曲、一部)、着メロ、その他の合計。
 - ・その他:インターネット、モバイル以外のチャネルの配信による収入等の合計。
 - 数量:シングルは曲単位、アルバム他はそれぞれの構成単位での報告(例:アルバム1枚分のダウンロード回数は1回とし、曲数換算は行わない)
金額:会員会社収入

Gold Album +... 認定

2006年1月度

2006年発売の新譜では、ミリオン1作品が認定されました。

■ 邦楽

アルバム

● ミリオン

(miss) understood	浜崎あゆみ	2006.01.01	AVT
-------------------	-------	------------	-----

● トリプル・プラチナ

NAMELESS WORLD	コブクロ	2005.12.21	WJ
----------------	------	------------	----

● プラチナ

大人(アダルト)	東京事変	2006.01.25	TO
リボン	ゆず	2006.01.18	TF
The Best of L'Arc-en-Ciel 1998-2000	L'Arc~en~Ciel	2003.03.19	KS

● ゴールド

綾小路きみまろ 爆笑スーパーライブ第2集! ~ガンバッていただきたいの...~	綾小路きみまろ	2006.01.25	TE
REDEMPTION	Gackt	2006.01.25	CR
Beyond the Sea	K	2006.01.18	SR
FLASH ~BEST~	ザ・ハイロウズ	2006.01.01	BMG
KOICHI DOMOTO「Endless SHOCK」Original Sound Track	堂本光一	2006.01.11	JE

シングル

● トリプル・プラチナ

粉雪	レミオロメン	2005.11.16	V
----	--------	------------	---

● プラチナ

Venus	タッキー&翼	2006.01.18	AVT
衝動	B'z	2006.01.25	BM
5センチ	WaT	2006.01.25	UM

● ゴールド

No Regret	倭田来未	2006.01.25	AVT
一輪の花	HIGH and MIGHTY COLOR	2006.01.11	SE
Hot chocolate	RIP SLYME	2006.01.25	WJ

ビデオ

● ゴールド

「ayumi hamasaki ARENA TOUR 2005 A ~MY STORY~」	浜崎あゆみ	2005.08.24	AVT
---	-------	------------	-----

■ 洋楽

アルバム

● ダブル・プラチナ

カーテン・コール。~ザ・ヒッツ	エミネム	2005.12.02	UM
-----------------	------	------------	----

● ゴールド

ファースト・インプレッションズ・オブ・アース	ザ・ストロークス	2006.01.01	BMG
ザ・ライジング・タイド	フォート・マイナー	2005.11.23	WJ

ゴールド・アルバム他認定基準枚数一覧

洋楽・邦楽	略号	最低正味出荷枚数 アルバム/シングル
ゴールド	G	累計100,000以上
プラチナ	P	250,000
ダブル・プラチナ	PP	500,000
トリプル・プラチナ	PPP	750,000
ミリオン	M	1,000,000
2ミリオン	2M	2,000,000
3ミリオン	3M	3,000,000

※AI:ソニー・ミュージックアソシエイテッドレコーズ/AVT:エイベックス・エンタテインメント/BG:ビーグラムレコーズ/BM:バーミリオンレコード/BMG:BMG JAPAN/C:コロムビアミュージックエンタテインメント/CR:日本クラウン/DF:デフスターレコーズ/DRM:ドリーミュージック/EP:アップフロントワークス(ゼティマレーベル)/ES:EPICレコードジャパン/FK:ファイブズエンタテインメント/FL:フォーライフミュージックエンタテイメント/GN:ジェネオン エンタテインメント/GZ:ギザ/JA:ジェイ・ストーム/IE:ジャニーズ・エンタテイメント/JK:ユナイテッド・アジアエンターテイメント/K:キングレコード/KS:キューンレコード/MC:ミュージック・コミュニケーションズ/MH:ソニー・ミュージックダイレクト/ON:ビーヴィジョン/PAR:プライエイド・レコーズ/PC:ポニーキャニオン/PK:ピッコロタウン/PZ:ピザ・オブ・デス・レコーズ/QQ:パームビーチ/RR:ロードランナー・ジャパン/SE:エスエムイーレコーズ/SI:ソニー・ミュージックジャパンインターナショナル/SM:ミュージックレイン/SN:SENHA & CO./SR:ソニー・ミュージックレコーズ/SV:アニプレックス/TE:テイチクエンタテインメント/TF:トイズファクトリー/TJC:徳間ジャパンコミュニケーションズ/TO:東芝EMI/UM:ユニバーサルミュージック/V:ビクターエンタテインメント/WJ:ワーナーミュージック・ジャパン/XL:アンリミテッドグループ/YR:アール・アンド・シー



(miss) understood/浜崎あゆみ



NAMELESS WORLD/コブクロ



カーテン・コール。/
~ザ・ヒッツ



粉雪/レミオロメン

※ダブル・プラチナ(50万枚)以上の認定を受けた作品のジャケット写真を紹介します。

■■■■■ 協会からのお知らせ ■■■■■

Topics & Informationでもお知らせしましたが、当協会では現在、今年度「Respect Our Music」キャンペーン第3弾を展開中です。

全国レコード店でポスター掲出のほか、新聞・雑誌広告、交通広告などを予定しています。



古紙配合率100%再生紙を使用しています

THE RECORD No.556 2006年3月号
社団法人 日本レコード協会 機関誌

発行人 佐藤 修
編集人 田辺 攻
発行日 2006年3月10日
発行 社団法人 日本レコード協会
〒107-0061 東京都港区北青山2-12-16 北青山吉川ビル11F
TEL. 03-6406-0510(代) FAX. 03-6406-0520(代)
URL: <http://www.riaj.or.jp/>

制作協力 株式会社エフビーアイ・コミュニケーションズ

編集後記

今月は沖縄特集です。取材を通じて、沖縄の音楽が、沖縄の人々に、生活、文化に、長い時間をかけて、深く、広く溶け込んで、根付いている事を改めて実感しました。そして、その沖縄音楽の力を、音楽ファン、作詞作曲家、アーティスト、ショップ、メディア、自治体等の様々な立場の方々が連携し合いながら支えています。皆さんの沖縄の音楽とその未来に対する揺ぎない自信が何より印象的でした。

(S)